

出題分析			
試験時間	90 分	配点	300 点
		大問数	7 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 難化 <input checked="" type="checkbox"/>
<p>【概評】</p> <p>大問数は 7 題で昨年度と同じ。出題形式も昨年度と同様である。2021 年度以降、大問Ⅵでは長文中の下線を引かれた語が適切であるかを判断する問題が、大問Ⅶでは与えられた語句を並べ替えて長文中の空所を完成させる問題が出題され続けている。昨年度と比較して読解問題の文章量に大きな変化はないが、一部の大問で抽象度の高い文章が扱われ、判断に迷う選択肢も散見されたため、全体的な難易度は昨年度と比べ難化しているといえる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	語句補充問題	短文中の空所を埋めるのに適切な語(句)を選択する問題。各問いにつき選択肢は 4 つで、計 20 問出題されている。基本的な文法・語法の知識を問うものがほとんどであり、解答は比較的容易である。	やや易
II	長文空所補充問題 「心の痛みとの向き合い方」	20 行程度の英文中に設けられた 10 個の空所を埋めるのに適切な語(句)を選択する問題。各空所につき選択肢は 4 つ示されている。文章量に対して空所の数が多く、内容もやや抽象的であるため全体的に難しい印象であった。	難
III	文挿入問題 「子どもの感情に対する考え方」	15 行程度の英文を題材に、与えられた 4 つの文が入る箇所を選択する問題。空所は 6 個設けられている。英文自体は論旨が明快で読みやすい。空所前後の内容を正確に把握できれば解答はそれほど難しくないだろう。	標準
IV	文整序問題 「幼少期の商いから学んだこと」	10 行程度の英文を題材に、与えられた 4 つの文を適切な順序に並べ替える問題。選択肢のみならず、前後の段落を含めてつながりを判断しなければならない。文と文の前後関係でややわかりにくい部分があったものの、文章そのものは読みやすく、全体として標準的な問題だったといえる。	標準

設問別講評			
V	単語完成問題	与えられた日本語と品詞の指定をもとに単語を完成させ、その頭文字を選択する問題。計 20 問出題されている。語彙自体のレベルは比較的易しめだが、提示された日本語訳から適切な単語を思い浮かべるのは容易ではない。例えば 8 の house について、単語自体は易しいが動詞としての用法となると思いつかない受験生も多かったかもしれない。	標準
VI	誤箇所指摘問題 「仕事と幸福について」	40 行程度の英文を題材に、下線部の 5 つの語が内容的に適切であるかを判断する問題。「不適切な語が 3 つ含まれている」という設問文を読み落とさないように注意したい。英文の内容自体はそれほど難しくないが、代わりとなる語を選ぶのが難しい設問も見られた。	やや難
VII	語句整序問題 「Chelsea Clinton の回顧録」	30 行程度の英文を題材に、与えられた語句を並べ替えて 2 か所の空欄を完成させる問題。例年空欄は 3 か所であったが今年は 1 つ減少した。日本語訳が与えられてはいるものの、並べ替える語を入れる空所が非常に多く、複数回使用する単語や不要な単語も含まれているため、解答には時間を要するだろう。	標準

合格のための学習法

まずは単語・文法という「基礎」を固めることが合格のための足がかりとなる。また、単語については意味だけでなく、語法もおさえるよう心がけてほしい。看護医療学部に特徴的な文挿入問題や文整序問題の形式を苦手としている人は、代名詞の指示内容や、文と文、段落と段落のつながりを意識して日頃から英文を読むようにしよう。2021 年度に変わった大問 VI・VII の出題形式は今年度まで続いてはいるものの、いつ形式が変わるかは分からない。英語の基礎的な力を養うためにも、2020 年度まで出題されていた英文和訳問題や自由英作文問題について対策を講じておくのがよいだろう。